



敗血症ってなんだろう？



感染した細菌が血流によって全身に広がることにより、全身に様々な影響がおよび、心臓など体の重要な臓器の機能が障害される病気のことです。また、敗血症の牛や豚では、筋肉や内臓などの中にも細菌が入り込んでいるため、食用には適しません。

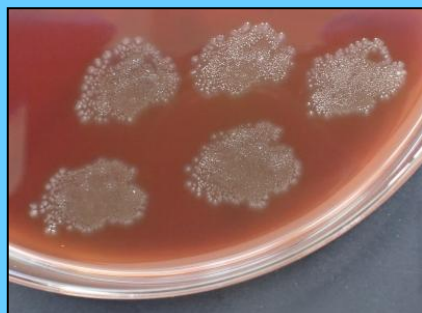
と畜検査では、主に解体後検査の時に、心臓にカリフラワー状の病変が発見されることで敗血症を疑い、出荷を保留とします。その後、精密検査をして、敗血症かどうか判断します。

解体後検査



心臓の中に、カリフラワー状の病変があると、精密検査を行います。

精密検査



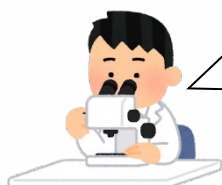
病変部位や各臓器を培地にスタンプして、培養します（写真は培養後のものです）。



培地に発育した菌体を染色し、顕微鏡で観察します（青紫色の粒々が細菌です）。

病変部位や各臓器の細菌発育状況及び、菌体の染色性・形状により、敗血症の診断を行います。

また、豚においては、この細菌が家畜伝染病予防法上問題な病気の菌（豚丹毒菌）でないかどうか判断するために、追加で遺伝子検査も行っています。



しっかりと検査をして、これからも安全なお肉の提供に協力していきます。

福岡市食肉衛生検査所

〒812-0055

福岡市東区東浜2-85-14

(TEL) 092-651-3404

(FAX) 092-651-9015